

かなであん



249-0002 神奈川県逗子市山の根1-7-24 Tel: 046-871-1863 Fax: 046-872-3485

© HP <http://kanadean.net> © mail.ryukeiji@kanadean.net

帰命・真理に還る

今年もお盆が巡って参ります。賑わいごとが重ったときに、「盆と正月がいっぺんに来たよう…」と形容されるように、お盆は仏事ですが、おめでたいお正月と並んで、日本人にもっとも親しまれ、生活に根ざした明るさを連想させる行事になっています。一般には、7月ないしは8月の13日から16日にかけて行われますが、地方によっては8月末から9月はじめに行うところもあると聞きます。このことから、厳密に日などにこだわらない、地方色や慣習が優先したものとなっていることがわかります。

* * *

「お盆」は、正式には「盂蘭盆会（うらぼんえ）」といい、もともとこの仏事は、『盂蘭盆経』の中に書かれた釈尊の弟子、目蓮尊者の故事に由来した教えです。

目蓮は、亡くなった母が餓鬼道に堕ち、飢えと渴きに苦しんでいるのを知り、その母に食物を与えるのですが、母が口にしようとすると、食べ物には炎となってしまう。そんな母を何とか救いたいと、釈尊に教えを請います。お釈迦様は、「母の業はとても深く、

人の力ではどうすることも出来ないものです。大勢の僧を招いて出来る限りのご馳走を人々に施せば、あなたの母は救われるでしょう」と説かれます。目蓮が、釈尊の教えのとおり「盂蘭盆会」を催したところ、母は餓鬼道の苦しみからのがれることができた、という故事です。

* * *

この話は、我が子のためにはいくらしても足りない、「我が子だけには」という我執が生む苦悩を説いています。自分のためではない、我が子のため、という一見美しい母の愛の中には、「私」の子というという我執が燃えさかっています。その罪業を、飢えと渴きの餓鬼道に堕ちたと表しているのです。

この教えは、その母の業（愛）を否定するものではありません。私たちが、我が子、我が母など特定のご先祖にとらわれているかぎり、いくら供養しても真の救いにはならないと説いているのです。

* * *

親鸞は父母の孝養のためとて一返にても 念仏申したることいまだ候はず そのゆゑは一切の有情はみなもって世々生々の父母・兄弟なり

と仰せられたと、弟子の唯円は、歎異抄に書いています。

親鸞は、亡き父母の供養のために念仏したことなど一度もありま

せん。そもそも、あらゆるいのちあるものは、くり返しくり返し生まれ変わり、生き変わりするなかで、すべてつながっていくものですから、いのちあるすべてが父母兄弟姉妹、生きとし生けるものすべてが家族とも言えるのです。

わたしたちが阿弥陀仏の願にまかせて今生を終えるとき浄土に往生して、そのときこそたすけあうこともできるでしょう。

人の力量によって往生するというのなら、あなたにも何らかの肉親の供養もできるかもしれませんが、他力という阿弥陀如来のご本願による念仏はそういうものではありません。自力でという心を捨てて、弥陀の大慈悲(他力)によってまず浄土に往生して悟りを得たなら、そのときはじめて、まず自分の身近なご縁の人々から救うことができるのです。と説かれています。

* * *

家族体系の変化や宗教心の希薄さから、現代人の多くが抱えている「先祖を供養する者が絶える」

「お墓や仏壇は誰が守るのか」などに惑わされることなく、私たちが、お盆や仏事を安らかな心で感謝のうちに法縁とよるこぼせていただけるのは、親鸞聖人のお念仏のみ教えと共に賢明に生きられたご先祖（仏）のおはたらきのおかげなのです。大切にお参りさせて頂きましょう。 合掌

お知らせ

8月は、例年の通り、『奏庵法座』『かなであん便り』ともにお休みをいただきます。ご法事などの仏事は通常通りに勤めさせていただいておりますのでいつでもご連絡下さい。

お盆期間中の庵へお参りは何時でもしていただけますが、その際に読経をご希望の方は、事前にご連絡下さいますようお願い申し上げます。



いっしょに学びませんか？

赤ちゃんを亡くされたことが仏縁になって、自らの仕事や子育てが一段落してからは熱心にお聴聞され、今、中央仏教学院の通信教育で学びはじめられた廣松さんからのご提案です。

「正信偈」のお味わいについては、以前住職がシリーズで行いましたが、この度は主にお経の練習をとというお誘いです。時間の許す月にはお気軽に参加してみてください。

ご法座の前、10時より45分間、正信偈の学習会を行っています。唱え方と意味を、少しずつ一緒に勉強していきたいと思っておりますので、ふるってご参加頂けますよう。(廣松)

ご案内
奏庵法座
『盆会』

日時
7月26日(金)
午前11時～

「真宗宗歌」
阿弥陀経
法話
(住職)
ご文章拝読
「恩徳讃」
～*～
おとき

暑中お見舞い申し上げます。皆さまにはお変わりなくお過ごしでしょうか。

連日の猛暑に、気にはなりながらも垂れ下がる葛やアイビーも階段脇の草も刈れずにあります。こんな時いつも、手前勝手に仏教の言葉を見つけては、言い訳しながら過ごしています。

今は、生命が育まれる時、草や虫を踏みつけたりせず、籠もって修行しなさいという夏安居の時期。草や虫にはもちろん、怠ける自分にも優しい言葉です。皆さまもどうかご無理なさいませぬようご自愛下さい。

夏休み前の法座はお盆の集いです。お参り下さい。

フィギアスケートのスター・安藤美姫が未婚の母になっていたと公表して話題になっている折も折、嫡出子と非嫡出子で相続税の配分に差があるのは人権に反するのではないかという裁判が持ち上がっている。■離婚の増加、非婚化、少子化が危惧され、生まれてくる生命が益々重さを増してくる中、幼児虐待事件やいじめ自殺の事件にふれるたび胸が痛む。どんな形であれ、この世に生を受けたいのちが分け隔てなく育まれてこそ、成熟した国家といえるのではないだろうか。■生物はそれぞれ敵したやり方で子孫を繋げてきた。植物のように、自然の風や鳥などによるもの。ある動物は単独で、あるいは群れで。しかし、そのすべてが過酷な環境変化に何とか適応しながら命を繋いできたのは、一にも二にも生を受けたものはみな、生命を全うしたいという本能をもっているからだろう。■命は授かるものという原点を考えれば、家族はこうであるべき、こうでないのなら生まれてはいけなかった、こうでない子は可哀相などという考えは、大げさに言えば、人類という生物の衰退を招くことに繋がっていくかもしれない。■日本は数年後には人口が半分になると言われている。人の命がバンダより軽いと揶揄される彼の国も、一人っ子政策という、人間のはからいの結果の偏りに直面している。■いのちは大切に育まれてこそ、その光を増すが、何もかもを与えること、他の子より恵まれた子にしようとするという考えに縛られていては、自然の摂理から遠のき、せつかく誰にも恵まれている生きる自由を失う結果に結びついてしまう。まさに餓鬼道に墮ちるという親を救うのがお盆のゆわれであるというのは、親のみならず人間にとって実に味わい深い教えだ。■社会生活を営む人間には規範や道徳が必要であることは確かだ。しかし、本来いずれの動植物の生命も授かりものであったように、いのちは誰の所有物でもなく、そのいのちを育む社会は、人も自然もすべてが関係しあい、多くのおかげで生かされているのだということを忘れてはならないものだろう。 Norimaru